

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

# ことう地域チームケア研究会 たより

平成 29 年 11 月 20 日 発行

## 第 29 回ことう地域チームケア研究会を開催しました

開催日時:平成 29 年 11 月 9 日(木) 18:30~20:30

担当団体:彦根薬剤師会・訪問看護ステーション連絡協議会第 5 地区支部

参加者:61 名(医療福祉関係者 30 名、福祉関係者 14 名、行政・包括等 17 名\*内新規参加 9 名)

## テーマ「服薬支援について~多職種での支援事例より~」

話題提供:池田富美子さん(リリー薬局)

進行は、近藤嘉男さん  
(丁字屋薬局)

森 清美さん(豊郷病院訪問看護ステーションレインボウとよさと)

### 【服薬支援事例その 1】訪問看護師の視点から A さん(ご家族と同居)

#### ◆A さんへの訪問看護の支援内容

全身状態の観察、**服薬管理**、清潔・保清への支援、  
創部処置、オムツ交換、**家族介護への支援等**

「服薬の重要性を本人、家族に説明」  
「薬のセット」「服薬介助は家族に指導」

- 多くの科から内服薬が処方されている。
- 薬の処方日は科によって違う。
- 服薬拒否、飲み忘れがある。



再入院。そして退院に向けて、

そうだ！薬剤師さんに相談してみよう！



- それぞれの診療科の受診日を同日にして、薬の処方日を合わせた。
- 薬剤師が週に一回訪問し、薬セットと服薬指導を実施することになった。

#### 薬剤師による居宅療養管理指導の導入

◎服薬セットを薬剤師さんにしてもらうようになり、看護師は、状態観察や介護状況などの把握、処置、介護者支援などに十分時間を当てることができるようになった。あせりがなくなり、利用者や介護者に向き合う時間ができた。

◎薬の説明を薬剤師さんからもしてもらうようになり、専門職からの指導により、服薬の必要性などが本人や家族に伝わりやすくなった。

◎薬剤師さんも支援チームに入ってもらうことで、服薬や介護状況などについて多職種からの情報に基づき看護師から利用者、介護者に話をすることができた。

薬剤師さんと連携したことで仕事がやりやすくなり、服薬も順調で患者さんの体調が安定、安心して療養生活を継続できている。

- ◎薬剤師さんが患者さんの自宅の様子を知っていることで、より服薬の相談がしやすくなった。
- ◎処方内容がタイムリーに把握できる。
- ◎訪問時の様子は報告書により情報が共有できる。



### 【服薬支援事例その 2】薬剤師の視点から B さん(独居・認知症)

薬のことはよくわかっています。薬の管理は自分でできるから勝手に触らないでね。



薬の飲み忘れ、重複して服用することが度々ある。

自己管理の意欲継続  
誤服薬の防止

確実な服薬支援

## チームで支援



サービス担当者会議で支援目標を共有  
タイムリーな連絡相談によるチームケアの実践

◆薬剤師と多職種による『チームケア』で服薬支援  
ケアマネジャーが中心となり、各専門職同士が、互いの役割を理解し、双方向で支援内容や状態を共有し合える関係がつけられることで、本人の思いに寄り添った服薬支援ができています。

薬剤師は在宅で患者さんと接する時間は多くないが、処方医(主治医)や多職種とつながることで患者を理解することができ、薬剤師として、様々なアイデアを提案し、安全に確実に服薬できる支援を進めていける。

## 残薬ゼロをめざした取組報告 (滋賀県薬剤師会より)

薬剤師の介入による残薬及び薬剤削減効果の継続的比較検証及び残薬を生ずる患者の薬局へのニーズの継続比較調査の報告(滋賀県データ)

- 1 薬局あたりの残薬回収患者数 前年対比 171.2%増加
- 1 薬局あたりの残薬確認薬価金額 前年対比 138.0%増加
- 日々の薬剤師による残薬確認が患者に理解されてきた
- ひとり当たりの残薬確認金額は前年対比 80.5%であったが幅広い患者さんに声かけ等で残薬確認の意義が理解

- 本人の残薬持参金額 前年対比 136.6%増加
- 介護・看護職の残薬持参金額 前年対比 250%増加
- 本人持参割合が家族持参と比較して 1.57 倍から 3.07 倍に増加。残薬確認の意識が家族だけでなく本人に深まってきた。
- 介護・看護職の持参割合が 250%増加！
- 多職種への残薬確認・回収事業推進活動の効果！

# 参加者の声



## グループ交流会 & 全体交流会

今回の交流会は、話題提供を聞いた感想や、日々服薬支援で取り組んでいることや困っていること等、様々な立場から出し合い、意見交換しました。多職種連携につながるアイデアも出されました。



### 話題提供(支援事例)の感想

- ・本人の自己管理をしたいという気持ちを大切にされた支援。多職種との連携、どう対応するとよいのか参考になった。
- ・在宅で行われている服薬支援の実態をはじめて知った。
- ・施設と在宅との服薬管理の違いを感じた。

### 多職種連携で服薬支援の課題解決!

- ・居宅療養管理指導により複数の薬局から出されている薬を管理してもらえて助かっている。
- ・訪問看護師などから患者さんの情報を得られていると、薬局でも生活状況がよくわかり配薬に役立つ。
- ・正しく服薬をしてもらうためには、普段の患者さんの様子を把握していないと難しい。多職種で情報共有をしっかりと行うことが大切。
- ・服薬支援のキーワードは「積み重ね」。チームケアの中で課題を積み重ね皆で共有し解決していくことの大切さを確認できた。
- ・その人にかかわっている多職種が同じ方向に向かって支援をする、多職種間での情報共有が必要。
- ・一つの職種だけでは解決できないが、多職種で相談すること、情報を共有することで解決できるのではないかと思った。

### 薬にまつわるあるある!?事例 どうする・・・?

- ・薬の飲み方を自己調整してしまう。
- ・薬が欲しくて薬を出してもらえないまでいろいろな病院に受診をされる。
- ・多科にかかりそれぞれ薬を別々の薬局からもらっている。
- ・デイサービスではお迎え時に服薬できているか確認することもあるが、わかりにくいこともある。また、処方薬が変更になっていても連絡がないと、持参されたときの確認が大変。
- ・主治医の前では薬を飲んでいるといわれる人が多い(実際は飲んでいない、残薬たくさん)。

### それぞれの立場でできること、今からでも出来ること

- ・お薬手帳を受診時に持参すると重複処方を防げる。保険証、診察券と共にお薬手帳も3点セットとして確認するようになるとよいのでは。
- ・お薬手帳にケアマネジャーの名刺をつけてみては? ケアマネジャーと薬局が相談しやすくなるのでは。
- ・「かかりつけ薬局」を持つ事のよさを広めよう。
- ・電子媒体の活用(あさがおネット、びわ湖メディカルネット)で今後、安全に薬が管理でき、提供できる環境が整えられないだろうか。
- ・薬局への残薬の持ち込みについて、みんなでもっと住民に周知していこう!



世話人会代表 松木明さん

『チームケア研究会で薬局や歯科の先生ともつながりができました。困った時に頼める方が増えてきました。これからは、顔見知りの方と“地域でつながっていく”ことを始めていきたいと思います!』

## ご参加ください! 次回(第30回)は...

◆平成30年1月11日(木) 18:30~20:30

テーマ:『摂食・嚥下、栄養について』

担当団体:彦根歯科医師会・湖東圏域の病院相談支援部門  
湖東圏域のリハビリ職

会場:くすのきセンター1階研修室

\*申し込みは不要です。当日会場へお越しください

\*問い合わせ先:ことう地域チームケア研究会事務局

彦根愛犬大上介護保険事業者協議会(TEL 49-2455)

彦根市医療福祉推進課(TEL 24-0828)



お知らせメールの登録をお願いします。

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、「①お名前 ②ご所属 ③ひとこと」をいれて下記にメール送信してください。

☆ことう地域チームケア研究会事務局

(E-mail) info@gen-ai-ken-kaigo.jp

彦根市医療福祉推進課(彦根市・彦根町・彦根町・甲良町・多賀町)

## 在宅医療福祉情報の森

<http://kusunoki-iyoho-mori-kotou-shiga.or.jp/>  
ホームページで研究会の情報をご覧いただけます。

# こんなこと思いました

第29回参加者アンケートより

## 思ったこと、印象に残ったことなど

### (薬剤師)

- ◆『残薬を薬局に持ち込んだのに無理と断られた』という件について、薬局で対応が異なるのは、薬剤師会として対応策、改善策を考えます。
- ◆薬剤師って役に立っているのかなと思っていたのですが、多少はできているのかなと思え、もっと多くの方と話し合っただらよかった気がしました。
- ◆他職種からの違う視点の意見が聞けてよかった。

### (看護師)

- ◆薬局連携をしているつもりではあったが、薬局さん側からはどの薬局でも居宅療養管理指導をしていることや薬の飲み方や何でも相談OKとの話を聞き、まだまだ知らないことが多く、利用できていないことを実感した。
- ◆「お薬手帳にケアマネの名刺をとめておく」「同じ薬局に薬手帳を持っていくと安上がり」「主治医に言いにくい時は薬剤師を通すと伝わりやすい」等勉強になりました。
- ◆多職種の意見が聞けてよかった。視点の違った意見が新鮮だった。
- ◆残薬を薬局で整理してくださるシステムが身近な薬局でも可能ということを知った。今後入院患者さんにも伝えていきたい。
- ◆認知症の方とのかかわりの難しさ、工夫、チーム力を感じました。

### (介護支援専門員)

- ◆いろいろな工夫がされていてありがたいなと感じた。

### (歯科医師・歯科衛生士)

- ◆かかりつけ薬局の重要性を再認識できました。
- ◆具体的な支援例が聞けてよかったです。

### (理学療法士)

- ◆本人の自己管理意欲を考えてかかわる必要があると感じました。

## ●参加者の方の所属事業所(同意をいただいた事業所様のみ掲載しています)

【病院 診療所】松木診療所・中西医院・成美記念クリニック・彦根市立病院・彦根中央病院・豊郷病院

【歯科医院】つつみ歯科医院・あかい歯科矯正歯科・田井中歯科医院・中山歯科医院・アンジュデンタルクリニック

【薬局】丁字屋薬局・わかば薬局神埼店・すみれ調剤薬局・疋田調剤薬局・リリー薬局・わかば薬局・阪神調剤薬局

【訪問看護ステーション】友仁訪問看護ステーションすずらん・レインボウとよさと・レインボウひこね・こころ訪問看護ステーション・彦根市立病院訪問看護ステーション・訪問看護ステーションふれんず

【居宅介護支援事業所】ケアプランセンターどリーむ・あったかケアプランセンター・笑ケアプランセンター・ニチイケアセンター彦根・彦根市社会福祉協議会・ぶどう居宅介護支援事業所・ケアマネジメントセンターライフ

【介護サービス事業所】デイサービスセンターあかり・デイサービスさくら・ミドリやいなえ・特別養護老人ホームさざなみ苑

【地域包括支援センター】多賀町・彦根市(すばる・ひらた・ゆうじん・ハピネス・きらら)

【行政関係・医療福祉専門職団体】彦根市医療福祉推進課・湖東健康福祉事務所

【その他】スズケン・中北薬品・薬学部学生